

第67回 日本赤十字社 献血チャリティ・コンサート

2024年1月28日（日）14:00開演 サントリーホール 大ホール

【出演者プロフィール】

●川瀬 賢太郎（指揮） Kentaro KAWASE, Conductor



©Yoshinori Kurosawa

1984年東京生まれ。

2007年東京音楽大学音楽学部音楽学科作曲指揮専攻（指揮）を卒業。これまでに指揮を広上淳一などの各氏に師事。2006年10月、東京国際音楽コンクール＜指揮＞において2位（最高位）に入賞。2011年4月には名古屋フィル指揮者に就任、2014年4月より神奈川フィル常任指揮者に就任（2022年3月末まで）。卓越したプログラミングを躍動感あふれる演奏で聴衆に届けている。

オペラにおいても、細川俊夫作曲「班女」、リアの物語」、モーツァルト作曲「フィガロの結婚」、ヴェルディ作曲「アイダ」などを指揮、目覚ましい活躍を遂げている。オーケストラ・アンサンブル金沢パーマネント・コンダクター、札幌交響楽団正指揮者、三重県いなべ市親善大使。2015年渡邊暁雄音楽基金音楽賞、2016年第14回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第26回出光音楽賞などを受賞。東京音楽大学作曲指揮専攻（指揮）特任講師。2023年4月より名古屋フィル第6代音楽監督に就任。

●石井 琢磨（ピアノ） Takuma ISHII, Piano



1989年、徳島県鳴門市生まれ。東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻を経てウィーン国立音楽大学ピアノ科に入学、同大学ピアノ科修士課程を満場一致の最優秀で卒業。ポストグラデュアーレコース修了。オーソドックスな古き良きクラシック音楽に軸を置きながら、「クラシックをより身近に」をコンセプトにした動画配信も行う新しいタイプのピアニストとして活動している。2016年ジョルジュ・エネスク国際コンクール(ルーマニア・ブカレスト)ピアノ部門第2位受賞。1958年から開催され、ラドゥ・ルプーやエリザベス・レオンスカヤなどの世界的ピアニストが覇者として名を連ねる伝統あるコンクール史上、日本人ピアニスト初入賞の快挙。国内外で演奏活動を行う他、“TAKU-音 TV たくおん”名義でYoutubeチャンネルを開設。総再生回数は8,300万回超え。チャンネル登録者数も24万人を超えて、なお増え続けている。2ndアルバム「Scene」がオリコン、Amazon、楽天等のクラシック部門にて第1位を独占。そしてポップス、アニソン等も含むオリコン総合部門においてクラシックCDとしては異例の

第3位にランクイン。CD発売記念全国ツアー「Scene」オペラシティコンサートホール東京公演東京公演、そしてサントリーホール大ホール追加公演はどちらも発売3分で完売になるなど、今最もチケットが手に入らないピアニストの1人。MBSラジオにてメゾン・ド・ミュージック「たくま式ラジオ」のパーソナリティを務める。ヤマハ「月刊ピアノ」にて「たくおんEssay」連載中。「楽器店大賞2023」ピアニスト部門大賞受賞。第15回とくしま芸術文化小奨励賞受賞。

●東京都交響楽団（管弦楽） Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra



東京オリンピックの記念文化事業として1965年東京都が設立（略称：都響）。

現在、大野和士が音楽監督、アラン・ギルバートが首席客演指揮者、小泉和裕が終身名誉指揮者、エリアフ・インバルが桂冠指揮者を務めている。また、ソロ・コンサートマスターを矢部達哉、コンサートマスターを山本友重が務めている。東京文化会館、サントリーホール、東京芸術劇場での定期演奏会を中心に、小中学生への音楽鑑賞教室、青少年への音楽普及プログラム、多摩・島しょ地域での出張演奏、ハンディキャップを持つ方のための「ふれあいコンサート」や福祉施設での訪問演奏のほか、2018年からは、誰もが音楽の楽しさを体感・表現できる“サラダ音楽祭”を開催するなど、多彩な活動を展開。

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、《オリンピック讃歌》の演奏（大野和士指揮／録音）を務めた。